

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572200154		
法人名	有限会社 鶴嶋		
事業所名	グループホーム 鶴嶋		
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字押方1303番地4		
自己評価作成日	平成24年7月3日	評価結果市町村受理日	平成24年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572200154&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572200154&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年7月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は、可能な限り施設はしない(現在まで一度も無い)。利用者の方が、安心して穏やかに生活していく事を願い、神社参りからお墓参りまで行っています。一人ひとりの心の安定と残された人生を愉快地に、心豊かに過ごしていただく為に、今までのライフスタイルを重視し、小さな変化にもすばやく気づける工夫として、職員の数を増やし、見守り観察を重視している。いつも身近に職員が居て、声を掛けられすぐに反応して、ゆっくり話を聞いてあげられるよう、ゆとりをもったシフトを組んでいる。季節ごとの行事への参加、保健所や保育所、小学生との交流。買い物や散歩、草摘み(路、わらび)。海へ出かけたり、野菜をつくったり…。車椅子の方が現在は徐々に増え、多くなってきておりますが、以前と変わらず一度でも一回でも多くの笑い声と笑顔が見たくて、毎日楽しくにぎやかに過ごしております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、高千穂道の駅近くの集落の中にあり、運営者の自宅敷地の中ということもあり、近隣の人たちとの交流も深く保たれている。庭には、利用者が元気な時から親しんだ果樹や山菜も植えてあり、一緒に収穫、料理に使うなど工夫している。また、運営者の介護に対する理想も高く、職員も理想に賛同し、「ゆっくりゆったりいつも一緒」をスローガンに掲げ、利用者の笑顔をより多く見たいと日々工夫している。職員の研修や資格取得にも力を入れており、介護の質の高さにこだわり、努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者に寄り添って、穏やかに生活できる家族という考え方を基に、独自の理念を掲げ、毎朝唱和している。管理者と職員が話し合いの時間を日常的に設け、理念の実践に向け取り組んでいる。	「ゆっくり ゆったり いつも一緒」をスローガンに掲げており、その人らしく暮らせるように、常に寄り添うとの簡潔な言葉の理念が行動に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気軽にいつでも立ち寄り頂けるような雰囲気づくりに努めている。また、中庭や玄関先で外気浴を行うことによって、どなたでも気軽にコミュニケーションが図れるようにしている。地域の方との交流やホームでの出来事は、ホームだより(鶴鶴通信)、又は手紙等で、家族及び周囲関係機関に公開している。	ホームの中庭、玄関は、利用者が外気浴する場所でもあり、地域の方たちが立ち寄りやすいように広く設計されている。また、鍵・柵もしておらず、開放的で地域の方との交流の場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の介護や理解については、施設長自らがこれまでの経験を生かし、各地区の団体(介護者の集い、医療、特養施設、女性婦人部)等から依頼があった場合は、話に出かけている。また、個人での相談等も受け付け、対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設利用者の実態や今後の課題等を介護、看護両面から詳しく報告を行っている。その後、各出席者より意見や評価を頂き、そこでの意見は職員間で検討するなどして、サービスのさらなる向上の為の指針としている	運営推進会議は定期的に行われており、幅広い出席者の参加をとの思いで、管理者自ら声を掛け、案内をしている。会議で出される意見を検討し、生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者自ら役場に訪問し、福祉課長や保険課長、又は町長との対談を設け、今後の福祉に対する要望や意見等の話し合いを行い、地域全体のクオリティアップを図っている。利用者の入退所状況については、随時一覧表を作成し、役場保険課に報告している。	管理者は、行政との連携を重視し、常に連絡をとっている。自らもヘルパー養成講座を担当するなど、積極的にかかわっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が良く理解しており、十分な見守りとケアで、利用者の安全と自由を保てるようにしている。	管理者・職員も日ごろより良く理解しており、ホームの玄関に鍵はかけておらず、また、職員を増やすなど、見守りに工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修などで虐待に関連する事柄を学び、防止に努めている。言葉遣いや振る舞いの仕方ひとつで、虐待に結びつく場合があるので、お互いに注意深く観察するように心がけている。また、虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者に対し、市町村へ通報義務が規定されている事を全体会やミーティング等で管理者より指導があり、職員には周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所されていた方で、日常生活自立支援事業を利用されている施設利用者が2名、成年後見人制度を利用されている方が1名おり、本人及び家族、スタッフに制度の説明を行っている。また、他の施設利用者の方及び親族、関係者にも、この制度の存在と意義を適宜説明させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時は、細やかな点を含め、時間をかけて説明して、理解と納得を図っている。解約の際には規約に基づいて、十分な説明をさせていただき、退所後のケアの相談に応じるような形をとっている。また、決定過程は明確に記録し、同意書と共に厳重に保管、管理している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活のさまざまな場面で利用者との話し合いの場を設け、暮らしを続けていく上での要望や不満苦情等を聴取し、そこで出た意見については迅速に対応している。また、意見、不満、苦情、相談等を受け入れる窓口を設け、運営に反映させている。さらに、家族、関係者が気軽に提言して頂けるような関係作り積極的に働きかけている。	契約の時に時間をかけ、意見の出しやすい雰囲気を作るように工夫している。家族会にも参加しやすいように呼び掛け、時間帯にも工夫している。出された意見は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、現場の職員の意見を尊重し、それは運営方法にも大きく反映されている。職員個人が運営者及び上司に意見を提言しやすいような、開かれた環境作り力を注いでいる。	全体会議での意見交換も大切にしているが、積極的に外部研修に参加するよう働きかけ、一緒に行動することで、更に意見をききやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修の受講や他施設見学等を行い、自己研鑽を積めるよう進めている。また、3年継続勤務の職員には国内、外の研修旅行を実施しており、さらなる向上心をもって働けるよう努めている。資格取得者には、手当をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の受講を行っており、知識や技術の向上を目指している。また、管理者が中心となり、日常業務や申し送り等で、実技を交えながら助言や指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区内に点在する関係施設との交流を行っている。交流を通して、それぞれの施設の事例等、有益な情報を交換することで、互いにサービスの質の向上を図っている。また、月に1度町内の各福祉施設が集まるケア会議や西臼杵郡内のケアマネが集まるケアマネ広域連絡会議に出席し、情報交換、研修等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は、入所前から直接面談し、本人の意向を受容し、安心・安定に繋がるよう努めている。また、利用者の生活スタイルや生活環境を初期の段階でよく知ることにより、ご本人への適切な言葉かけが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、管理者より家族(特に同居の方)の意見を良く傾聴し、専門的立場からアドバイスを行い、問題や不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、幅広く各種福祉サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志と自尊心を尊重し、できることは本人に行っていただきながら、個々の得意な分野で互いに支えあう関係作りに努めている。例えば、農作物の作り方や料理法を聞いたりしながら、一緒に体を動かし、収穫などを喜んだり、季節の野菜、団子作りなど、昔の懐かしいおやつ作りなどを再現することで、笑顔や会話が弾み、生活の張りにも繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を受け入れながらも、状況に応じて協力を依頼し、本人を共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境が変化しても、本人の馴染みの人物との関係や場所を大切に、ドライブなどで訪問するなど、できるだけ支援に努めている。近所の人達との再開に、おしゃべりがはずむ事がある。	管理者は、入居者の自宅やなじみの場所へも帰宅支援しており、関係が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が互いに協力し、支えあひながら、生活を送れるように常に働きかけている。利用者同士の相性などの把握に努め、場合によっては職員が介入し、より良い環境作りの構築を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の事情もあるが、サービスの契約が終了しても、継続的な関係が続く事例がある。また、そういった関係をもてることは、素晴らしいことと全職員が自覚しており、誠心誠意お世話させて頂いている。退所しても来訪されたり、季節の物を送って下さるご家族もいて、相互の良い関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を随時聞き取り、ケアプランに反映させている。聞き取りが困難な方については、家族とも相談するなど、その人らしく生活が送れるよう検討している。	聞き取りが困難な利用者には、家族に聞いたり、表情を読み取る工夫をしながら、個人の希望を反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は家族から、子供の頃からの生活歴や環境などを聞かせて頂き、センター方式のアセスメントに残している。また、ご本人の生活環境を知るため、ドライブを兼ね一緒に自宅訪問し、自宅の周りの環境の把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにおいて個別に状況を報告し、その時々で状態の低下が著しい方については、繰り返し検討を行うなど、全員が安定と安心した生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの際に、本人・家族から当ホームでの生活希望、要望を聞き取り、介護計画に繋げている。また、その方にとって、より充実した楽しい生活を送って頂く為、聞き取りの中から、その方に合った仕事作りを提供できるよう心掛けている。	利用者の担当者を中心に、月に1度モニタリングをしている。また、日々の様子を2時間ごとに記録することで、利用者にとって良い介護計画となるように努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別台帳に細かく記録を残し、問題が生じた場合は、台帳から原因や背景を検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り業務の流れに捉われず、その時々にある利用者やご家族の要望に即対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、地元の消防団参加による防災訓練や交通安全指導員による交通安全指導、また、近くの保育園児による踊りの慰問等、様々な機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が心から信頼の置ける医師を担当医とすることを第一と考えており、家族の意見とあわせて、適切な医師のもとで、医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関もあるが、利用者・家族の意思に沿うように支援している。受診の際、同行するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、日々のバイタルの変動から全身状態の観察、細かい変化など、気づいた点は報告し、処置や留意点などの指示をもらっている。指示は全職員に周知徹底するよう申し送り簿に記入し、毎日見るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者の状態を考慮した上で、早期退院に向けての話し合いや協力を医療機関と行っている。面会に行き、食事介助をしたり、ホームの様子を話したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、本人又は家族から終末期の希望要望まで聞き取りを行い、アセスメントに記録を残している。また、身体の重度化、病状の悪化が進んだ際にも、その都度確認し、希望に添えるよう対応している。かかりつけの医師においては、緊急時連絡にて、指示が受けられる体制が出来ている。	入居時に、ターミナルケアについて話し合いをしている。一人の利用者の看取りの経験から、三者での情報の共有も含め、支援体制ができています。また、その経験から、ホーム独自のマニュアルも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体会や事あるごとに内部研修として、応急手当や搬送法等、しかるべき研修を受けている施設長の指導の下、訓練を行っている。また、消防署より来訪して頂き、蘇生法の訓練も行っている。当ホーム独自のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防団や警察より、被災の際の避難方法や対処法などの指導を定期的を受けている。また、運営推進会議では、地元の消防団に参加して頂き、ホーム内の構造や利用者の状況の把握をして頂いている。緊急時の移動方等、防災ボランティアの研修を受けた職員より習っている。	地元消防団の参加をもらい、夜間想定の実地訓練も定期的に行われている。近所で火災もあったことから、本年度はより実践的となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩と尊重し、誇りを傷つけない対応を強く心がけている。個人情報や、管理者の指示で厳重に管理しており、また、外部に漏れ出さないように配慮している。	管理者、職員は、プライバシーに常に注意をはらい勉強をしている。利用者の誇りを傷つけないように細心の注意をはらっている。また、隣人・知人に近況を聞かれることもあるが、個人情報に気をつけ、返答している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人・個人で出来ることは可能な限りしていただくことで、自立支援を促している。また、個人の意志を尊重し、自ら意思決定の場面を作ることで、日々のストレスの軽減を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや価値観は多様であるということや、全職員は理解しており、無理に合わそうとせず、可能な限り希望に沿うよう働きかけている。介護は、あくまで個々に合わせて、その時の状況によっては、見守りでの対応する事も必要である(やる気をそぐ対応はいけない)。生活全般において強要するのではなく、出来る限り本人の意向を尊重していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がおしゃれをして、喜びを感じるということは、QOL向上に繋がるということを重々承知しており、取り組んでいる。理容・美容も本人の意思に従って、望む店や馴染みの店に行けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に、本人より飲食の好き嫌いを聴取し、楽しく食事をしていただけるよう配慮している。調理は、基本的に職員が一任しているが、野菜の下ごしらえや、テーブル拭き、料理注ぎ、配膳等で利用者の力をお借りしている。	季節の食材を一緒に取りに行ったり、下ごしらえをしたり、できることを一緒にしてもらい、楽しんでいる。食物による回想療法を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的にその方の食事摂取量や水分量などを細かくチェックしていき、それをガイドラインとしながらも、状態に合わせて十分な栄養を摂取できるよう努めている。また、状態異常に伴う食欲の低減時には、健康補助飲料(ラコール、ビタミンガード、オーエスワン)等を併用するなどして、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケア(義歯、自歯みがき、うがい)は、毎食後実施している。一人ひとりの状態に応じ、見守りや一部介助を行っている。基本的に、火曜日、金曜日の昼食後は、ポリドントでの消毒を行っているが、状態によっては随時消毒を行い、常に清潔に努めている。個人の歯の状態に合わせ、協力医の増井歯科より往診に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへと自力で向かえない方には、定期的に声かけをし、気持ちよく排泄をしていただけるよう支援している。その際、本人のプライドを傷つけないよう、配慮した声かけ対応に心がけている。排便の確認は、排便チェックシートにチェックを行い、排泄パターンを読み取るよう努めている。	ポータブルトイレは使用しない方針であり、排せつチェック表を基に、声をかけるなど、排せつの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、散歩やレクリエーションによる運動などで、適切となる排泄パターンの確立に努めている。便秘が長く続く場合には、医師や看護師の指示で、投薬により排便を促している。車椅子の方もドライブ(水汲み等)に誘い、便秘解消の手立てとして役立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝バイタルチェックを行い、健康状態に異常が診られる方には、入浴前に再度チェックを行い、看護師の指示を受けている。入浴時には、一人ひとりの状態や希望に合わせて、臨機応変に支援をしている。季節に応じて、ハーブや柑橘類を湯に入れたりして、楽しんでいただいている。	職員と利用者1対1で、希望に沿った入浴支援をしている。今年は、温泉に一度利用者で行っており、楽しい入浴支援ができるようにと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼は、1時間程度体を休ませて、休息していただけるよう声かけ・誘導を行い、夜間は夕方から就寝に向けて、自然に穏やかなリズムに入れるよう考慮した場面作りを行っている。夏は夕涼みをしたり、ホテルを見に出かけたり等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、介護記録簿の裏面に添付しており、担当職員と看護師は、各個人の薬の名前、効能を把握している。主治医と協議し薬を減らす方向にて…。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のあらゆる場面において、入居者一人ひとりに合わせた役割を持ち、常に感謝の声かけと労をねぎらい、充実した楽しい生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへの買い物や公園への散歩、また、神社へのお参りなど、一人ひとりの希望に添って実施している。	近所のスーパーや散歩など、一人ひとりの希望に沿って支援している。また、管理者は、必ず下見を行い、季節を感じるドライブなどにも、よく一緒に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者、職員は、入居者が自分でお金を保持することの大切さを充分理解しており、希望者は、家族を交えて話し合いの上、所持されている。本人の意思を尊重して、随時買い物などが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には随時対応しており、より良い関係が築けるよう支援している。家族や知人からの電話や手紙のやり取りは、頻繁に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも扉を開放しており、外からの風を入れ、常に自然を感じて頂けるようにしている。利用者の方からの意見も取り入れ、穏やかな雰囲気を出し出すようなインテリアの配置や観葉植物等を置き、明かりの調節にも留意している。また、ホールでは、アロマテラピーを行い、オイルやお茶、コーヒー等の香りで、リラックス出来るような空間づくりにも努めている。トイレはいつも清潔に努め、浴室にも観葉植物を置いて、ゆっくりくつろいで頂けるよう配慮している。	玄関は開放的となっており、外気浴をする場所ともなっている。リビングの天井からの自然採光は、季節を感じる花や飾りとともに、利用者にとって、心地よさを感じるよう配慮されている。アロマテラピーを行うなど、くつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートな空間も、利用者同士が互いに語らえる空間も大切だと考え、環境には気を使っている。ホールや玄関には、3人がけのソファを設置したり、さまざまな場所に腰をかけて、休める椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れるとともに、昔から馴染みのある家具などをご家族にお願いして、設置させていただいている。また、その方のこれまでのライフスタイルを、ご家族または利用前に福祉サービスを利用されていた場合は、その関係者(ヘルパーなど)から聞き取り、これまでの習慣を大切に残していけるよう努めている。	利用者の使い慣れたたんすや小物が置かれ、利用者の好みの飾り付けをしている。小さな仏壇や家族の写真など、利用者が落ち着くよう、配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般において、出来るだけ入居者の持つ力を引き出せるよう、自立支援に心掛けている。		